

# 巣舞る通信

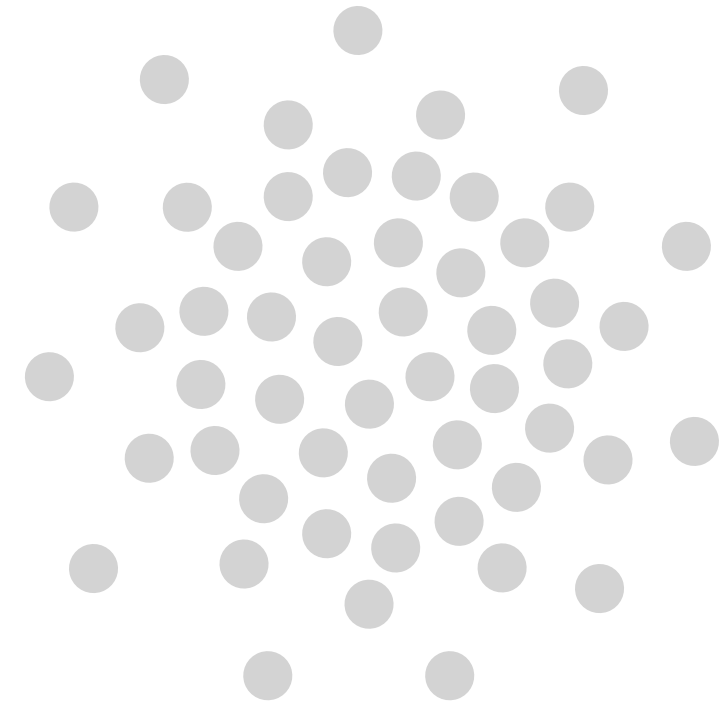
TAKADA Architectural office  
smile tsushin

Vol. **37**  
2025

わたしたちは“楽しい”も  
デザインしています。



千人鮮色



千人鮮色



長岡本社 / 〒940-1105 長岡市旗田屋5-6-22  
新潟営業所 / 〒950-0948 新潟市中央区女池南3-5-15  
リフォーム研究所 / 〒950-0941 新潟市中央区女池6-2-25

<http://www.takada-arc.com>

TEL. 0258-36-1230 E-mail: info@takada-arc.com  
TEL. 025-284-4700 E-mail: niigata@takada-arc.com  
TEL. 025-282-7011 E-mail: relabo@takada-arc.com

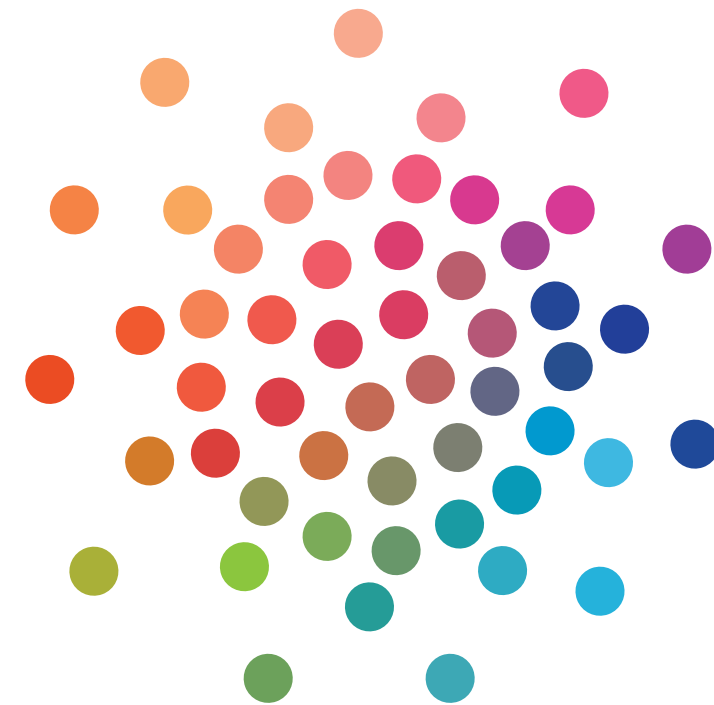
巣舞る通信 smile tsushin  
Vol.37

2025年12月 発行：高田建築事務所

37



TAKADA  
株式会社 高田建築事務所



# 千人鮮色

## contents

ご挨拶 .....	04	不動産部 (株)フォレス・タカダ .....	21
築縁様インタビュー(新潟・長岡) .....	05	巣舞るメッセージ・住宅見学会2025 .....	22
Blogから振り返る1年 .....	09	築縁様の声 .....	23
受賞のお知らせ・竣工のご紹介 ー各種建築ー .....	15	ご紹介制度、SNS .....	24
リフォーム部 リフォー ミー .....	17	言葉との出会い:発酵し続けることば! .....	25
リフォーム研究所 リフォームあれこれ .....	19		



## ご挨拶

早いもので本年も残りわずかとなりました。  
皆様には一年を通じて大変お世話になり、誠にありがとうございました。  
そして巣舞る通信を皆様にお届けできることを大変嬉しく思います。

今年も様々な出来事がありました。大阪万博もそのひとつではないでしょうか。お盆を利用し私も行ってきました。実物の大屋根リングの下を歩き、そのスケールの迫力と木のやさしさに不思議な感覚になりました。自宅の近くに新幹線の高架が走っていますが、それを眺めながらこれが東京まで続いているのかと、ふと当時の現場を想像し驚くことがあります。大屋根リングにも建築より土木的スケールを感じ、さらにこれが約2年間で作られたことにただただ驚かされます。  
その後、前回の大阪万博会場へ向かいました。目当ては太陽の塔で、今は公園として整備されていたかつての会場に象徴的に立っています。視界に広がる緑の海に塔の胴体から上が空の中に飛び出した姿。緑色の海から太陽の塔が上陸してきた！印象は強烈でした。目にした瞬間、その圧倒的なエネルギーと「芸術は爆発だ」のフレーズを体で理解することになりました。造形力がここまで心を揺さぶるものなのかと。新旧の万博を訪れたことで、今回の万博が将来どのような形で整備されていくのかを想像するのも楽しい時間となりました。

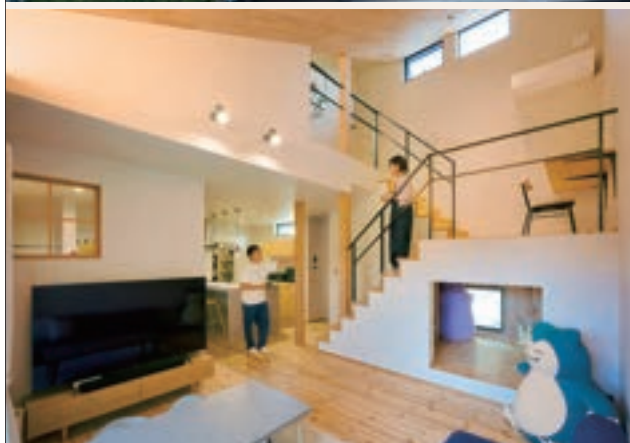
さて会社の近況についても触れさせていただきます。この夏は「アーキファニチャー」が誕生しました。家具以上建築未満のスケールを持つ家具で、アーキテクチャー（建築）とファニチャー（家具）が融合する造語になります。  
その家具を使って東光子ども園様の図書コーナーをお手伝いさせていただきました。理事長の「子どもにとって楽しく多様性ある空間を作りたい」というお考えに共感し、面材を自由な形にカットできるCNCルーターを利用してアーキファニチャーをつくりました。  
有機的なフォルムはどこからが図書コーナーかあいまいな空間をつくっています。直線で区切られたエリア分けではなく、エリア内外が溶け合いながら、どこまでが椅子でどこまでがテーブルかも分かりません。触れる人が想像して使い方を見つけていく。子どもたちの感性を刺激してくれることを願っています。

また弊社はおかげさまで来年50周年を迎えます。皆様から支えられこのように継続してこられたことに改めて感謝申し上げます。  
スローガンに掲げている千人鮮色。前身の「巣舞」から一貫してお客様の「想いをカタチに」の継続でした。これからも感動創造、千人鮮色で住まいづくりの楽しさを提案していきたいと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。そして皆様のご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。

(株)高田建築事務所  
代表取締役社長  
高田清之介

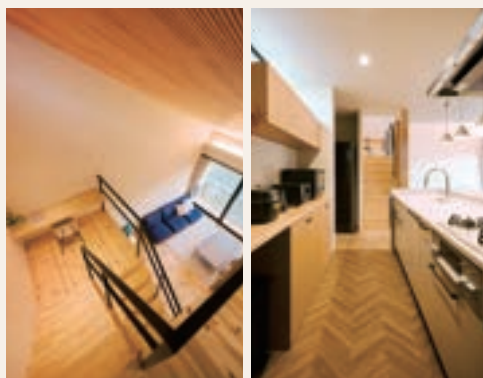


## 趣味と暮らしをつなぐスキップフロア



正面に立つと、屋根で覆われたポーチとデッキが目に入る。T家の住まいは、ポプラの木の壁と空色のドア、格子窓が相まって、明るさの中にナチュラルな雰囲気漂う。室内に入ると、スキップフロアが動きを生むLDK。木の温もりの中、夫妻それぞれの趣味が大切に包み込まれている。

二人は見学会で「美術館の家」(<https://www.takada-arc.com/chikuen/11196>)を訪れ、素材の持つ質感に引かれたという。「無垢の木の床や塗り壁っていいなと思って、放題紙にも書きました」。床や天井には無垢の木、手すりには以前から憧れていたというアイアンに。さらに「大好きなキャラクターを置く部屋が欲しい」という奥さまの要望に応じて、階段下にコレクションルームが設けられた。ホワイトファアーを張った勾配天井の下、中2階に書斎スペースのあるスキップフロアは、趣味と暮らしがほどよく区切られつつも両立、楽しさに満ちている。



## くらし・たずねて

「完成がはじまりです」いつも、そんな気持ちでお引き渡しをしています。家具が入り、家族が過ごし、日々を重ねる中で、その家らしい空気が生まれていく。家族とともに育ち、独自の色を深めた「数年後の住まい」を訪ねました。



住まいには、夫妻それぞれの趣味の空間が備えられている。奥さまのコレクション兼ゲームルームにはキャラクターのぬいぐるみがいっぱい。「好きなものに囲まれて籠る感じがいいし、ここに入る分だけにしようという目安にもなっている」と話す。

一方「筋トレが趣味」というご主人は、キッチン奥のトレーニングルームが自分の部屋。身体の調整を伝える仕事柄「自ら実践して、根拠のある整え方を伝えたい」と時間を作ってはトレーニングに励んでいる。好きな世界に浸りつつゲームをしたり、身体を鍛えたり。二人はそれぞれの空間で、自分時間をアクティブに過ごしている。



キッチンは、「モノを出したくない」という二人に対して、扉付きの棚を造作し、カフェ風のテイストに。モルタル調のメラミンでカウンターを製作し、レンジフードはステンレスに。家電はブラックで統一した。

2階にある寝室は、一転して落ち着いた雰囲気。壁は「無垢の床やアイアンに馴染むように」と選ばれたグレージュ。ニュアンスのあるこの中間色は、1階の壁や建具にも採用され、家全体のベースカラーとなって素材を引き立てている。「どんな色にするか悩みましたが、この色にして本当に良かった」。暮らす中で、満足が高まっているポイントだという。



夕暮れになると、格子窓から暖かな光が漏れ、ポーチが明るく浮かび上がる。「毎日見っていますが、この時間帯は特に輝いて見えます」。帰宅時、時には花を持って。「引越してから飾るようになりました。花がすごく映えるんです」。趣味を詰め込んだ心弾む住まいが、二人に新しい楽しみを一つ、増やした。

【DATA】

三条市T様邸／2023年入居／夫婦／新築



## 外と内。人と人。斜めの土間がつなぎ役に



K邸のテーマは「つながり」だ。

2階につながる吹き抜けのリビング、リビングとひとつながりになったダイニングキッチン。中庭に面した「土間」が、それを強め、同時に「自然に」している。

「家の中は仕切らなくていい」「用途を一つに決めずに、自由に使える空間がほしい」。当初から二人の意見は一致していた。そして「人を呼ぶのが好き」で、多い時には20人も集まることも伝えたという。



「高窓を開けて換気をしたい」という要望に応じて、2階ホールからキャットウォークを伸ばした。端には本棚。家族の気配を感じながら、一人にも籠れる場所だ。

リビングとキッチンの間には、オープン棚を造作。土間と呼应するよう、斜めに配したことで、人目を引く一角になったと同時に、2つの空間にワンクションを置いている。「今日は何にする?」。来客に二人が話しかける声が聞こえるよう。



キッチンと土間の先に設けられた小上がりの和室。グループで卓を囲んだり、来客の寝室にも使える。壁で仕切りながらも、建具を開ければダイニング・キッチンと大きくつながる。

## くらし・たずねて

「完成がはじまりです」いつも、そんな気持ちでお引き渡しをしています。家具が入り、家族が過ごし、日々を重ねる中で、その家らしい空気が生まれていく。家族とともに育ち、独自の色を深めた「数年後の住まい」を訪ねました。

対面式のキッチンには、同じ高さのテーブルを2つ並べて。横に配してカウンターにしたり、縦に並べて会食テーブルにしたり、TPOによって使い分けているという。「朝、中庭を見ながら、ここでコーヒーを淹れると、一日が始まる感じがしていい」とご主人。



中庭の光と開放感を呼び込んだ土間のあるダイニング。視線は、天井の格子によって、自然とリビングに導かれる。こちらから見ると、斜めの配置と、ゆるやかなつながりがより印象的に。

玄関を入ると、斜めに切られた上り口。K邸には随所に「斜め」が採用され、広がりを感じられる。さらに格子の戸からは吹き抜けのリビング。コンパクトな空間に、室内の開放感が伝わってくる。



「用途を決めない」空間として設けられた2階のホール。現在はトレーニング機器を置いて。戸を開け放すと吹き抜けにつながり、離れた場所においてもお互いの気配を感じられる。



窓の外の小さなベンチは、「今後、近所の人たちの憩いの場になったらいいな」とのこと。LDKとつながる中庭を通して、ご近所と会話が弾んでいる。「家を建てて、人とのつながりが増えた」とK夫妻。友人知人からの「また来ていい?」のリクエストも多くなり、ますますにぎやかになっている。空間に仕切りがないように、人との関係も自由でしなやか、そんな暮らしと住まいだ。

【DATA】

柏崎市K様邸／2022年入居／夫婦／新築





## 新潟営業所 お勧めのお花見スポット

明日から4月、雪が多かった今シーズンですが新潟市内もすっかり春めいてきました。  
春と言えば桜。県内各地に桜の名所はありますが、新潟営業所スタッフ一推しの桜スポットは...

ずばり、オフィスに隣接している県立鳥屋野潟公園 女池地区「水辺の広場」の桜です。  
じつはこちらの桜、全国各地の気象台が開花宣言をする際、新潟市の開花日を判定する標準木になっています。(この時期、毎日のように気象台の方が確認に来られています)この公園の開花とともに、新潟の春が始まります。  
今年の新潟の開花予想は4/6(日) 満開予想は4/11(金)となっています。

4月第二週の週末が見ごろになりそうですね。  
この季節、水辺の広場は休日になると多くの花見客でにぎわいます。

新潟営業所でもこの季節、お昼休みに花見を兼ねたスタッフの昼食会を行います。  
見頃の晴れの日にお花見ができるのは、鳥屋野公園に隣接する新潟営業所の良いところです。

これからの行楽シーズン、ぜひ鳥屋野潟公園の桜を見に来ませんか？  
その際はぜひ新潟営業所にも遊びに来てください。  
最新の住宅建築情報や建築実施例のギャラリー、オフィス内をご案内させていただきます。



3月末のつぼみ

1	2
3	

1 満開の桜  
2,3 お花見ランチ

20250331



## クロス選びのリアル！

リフォーム研究所事務員S、このたびついにマイホーム🏠が完成しました！

「クロスは少し濃いめの色を選んだ方がちょうどいい」「薄い色だと実際に貼ったときにぼんやりしてしまうかも」という声を、よく耳にしていました。  
我が家はあまり冒険せず、無難な色味を中心に選んだのですが、実際の仕上がりを見ると「こうなるんだ〜!」と思うことも多かったです。サンプルと実際の写真を比較してご紹介しますので、少しでもクロス選びの参考になれば嬉しいです。

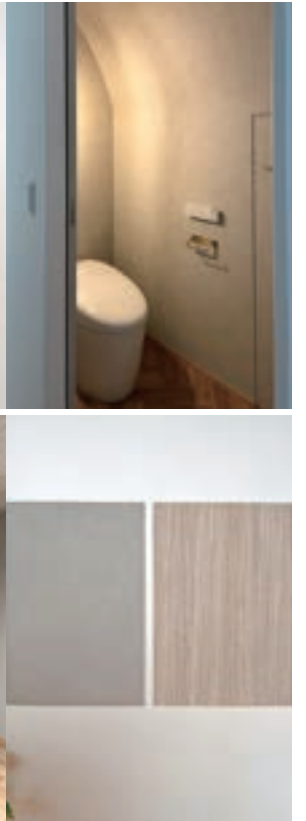
■キッチン背面「リリカラXB-155」(写真1)  
柔らかなトーンが思っていた以上にちょうどよく空間に馴染んでくれました。キッチン本体のカラーもグレーを選んでいたので、統一感のある空間に仕上がったのが嬉しいポイントです。

■1階トイレ「サンゲツRE55357」(写真2)  
窓のない空間で、照明はペンダントライトのみ。そのおかげで落ち着いたトーンになり、思った以上に雰囲気のある仕上がりになりました。

■2階トイレ「リリカラLW420」(写真3)  
想像していたよりもグリーンが明るく仕上がりました。まさに「もう少しだけ濃い色を選んでおけばよかったかな」というありがちな後悔ポイントです(笑)

■寝室・壁「サンゲツSP9737」、天井「RE55582」(写真4)  
我が家の中で、一番冒険したのが寝室です。「寝る部屋は暗く落ち着いた雰囲気にしたい」という夫の意見をもとに選びました。壁は深みのある色、天井には木目のクロスを採用し、空間全体をトーンダウン。落ち着いて気持ちよく眠れる寝室になり満足です。

部屋の広さや明るさによって、同じクロスでも色の見え方が変わることがあります。施工事例や完成見学会をご覧くださいと、より具体的に空間のイメージをつかんでいただけます。  
また、「柄ものや派手な色のクロスが気になるけれど、失敗したくないから挑戦できない…」という方も多いのではないでしょうか？そんなときは、トイレや収納などのコンパクトな空間で取り入れてみるのがおすすめです。小さなスペースだからこそ、ちょっと大胆なデザインでも気軽に楽しめますよ。



1	2
3	4

1 キッチン背面  
2 1階トイレ  
3 2階トイレ  
4 寝室

20250428



採用したアクセントクロス





Blog 3

## 新潟県出身の建築家 前川國男の建築を巡る

新潟県出身の建築家、前川國男をご存じでしょうか。世界3大建築家として知られる、ル・コルビュジェはご存じの方も多いかと思います。前川國男は、コルビュジェの元で経験を積み、日本のモダニズムを牽引した建築家の一人です。代表作として、東京文化会館、神奈川県立音楽堂、東京都美術館、国際文化会館などがあげられます。実は、そんな前川國男の建築を、新潟県内でいくつか見ることができます！

### ■新潟市美術館（新潟市中央区西大畑町）

前川國男の最晩年の建築であり、前川建築の集大成ともいえるのではないのでしょうか。私が、新潟市美術館が大好きなので、そう思っているだけかもしれませんが。西大畑公園と併せてデザインされています。公園には、かつての新潟を連想させる堀や柳が設けられ、幼少期を新潟で過ごした前川國男ならではの設計となっています。建物裏庭は、展示空間のボックスが雁行し、奥の作品への期待感が高まります。(写真2) 外壁は、前川建築の特徴といえる、打ち込みタイル工法という工法で作られています。このオリーブ色も、木々になじむ色でとても良いと思います。(写真3)

### ■長岡ロングライフセンター（長岡市日越）

こちら、自然の中に建築されており、やはり庭と併せて設計が進められたのだらうなと思わされます。(写真4) 近代建築の勉強をしていると、よく「屋上庭園」という言葉を聞きますが、私はここで初めてそれらしき空間を見ることができました。(写真5) ここから長岡花火を見られたら、とても気持ち良いんだろうなと思います。体育館の天井には青が使われています。(写真6) 難しそうな色をあっさり共存させていて、とても勉強になります。外水栓も素敵にデザインされていました。「Long life center」の「L」なのではないかと思いましたが、真相は分かりません。長岡に前川建築があることが驚きでしたが、窓周りのデザインを見て確信しました！ガラスを引っ込めて、壁を庇のようにしているとのこと。(写真7) 雪国だからこそ生まれたデザインです！

### ■長岡市北部体育館（長岡市東蔵王）

窓のデザインや、軒下空間のデザインに、前川さんらしさを感じます。(写真8.9) ロングライフセンターと見比べると、共通点にいくつか気づきます。どんなところが似ているか考えてみると面白いかもしれません！また、内部にもたくさんのこだわりポイントがありますので、足を運んだ際はぜひ探してみてください！

1	2	4
	3	5
8	7	6
9		

- 1 新潟市美術館
- 2 雁行する展示空間
- 3 オリーブ色の外壁
- 4 長岡ロングライフセンターの外部
- 5 屋上空間
- 6 体育館天井
- 7 窓周り
- 8 北部体育館外観
- 9 エントランス

20250519



ロングライフセンターの外水栓



Blog 4

## 【建材研修レポート】無垢材の温もりを再確認！

住宅建材の中でも、多くの輸入無垢建材を取り扱っている見附市の上野住宅建材株式会社様（通称：上野住建）の事務所に、先日スタッフ11名でお邪魔してきました。

まずは事務所2階の展示スペースにご案内いただき、代表の上野様より会社の歴史や取扱商品についてご説明いただきました。

上野住建さんは元々材木店からスタートし、時代の流れを経て方向転換したことで、輸入建材を販売する今の姿になったんだとか。「材木店からスタート」、ここは当社との共通点です！

一通り商品をご紹介いただいたら、今度は実際に商品を見て触って体感。

無垢材は、年月が経つにつれて見た目に変化が出るのが大きな特徴のひとつ。たま〜にメンテナンスしてあげると、長く愛着をもって使用できます。

ちなみに、当社新潟営業所のホールに使用している床材、“アドモントフロア”のバインも上野住建さんの商品です。

商品体感の後は、別棟の倉庫にご案内いただきました。

沢山の在庫に圧倒されるスタッフたち。様々な樹種に触れ、どんな提案に使えるか考えるとワクワクです。

こんな感じで私たちスタッフは、お客様により良い提案ができればと提案する建材の背景や住まいのトレンドなどについても積極的に学んでいます。（建築好きスタッフばかりなので、毎回みんな遠足気分楽しんでるのはここだけの話👉）

今回も楽しく学ばせていただきました。

上野住建さん、ありがとうございました！！

商品や会社のことについて気になる方は、ぜひ上野住建さんのHPをご覧ください。

1	2	3
4	5	6

- 1 会社の歴史や商品についてご説明
- 2 木製サッシの開閉体験
- 3 建材のサンプル
- 4 倉庫にてご説明
- 5 実際に触ってみる
- 6 玄関ドアのサンプル

20250609



新潟営業所ホールの経年変化





Blog 5

## 「めぶく。」前橋で感じた 建築とまちづくり

前橋で今、建築やアート、おしゃれな外観や内装でのリノベーションを軸にした空間とまちづくりが静かに進行しているのをご存知でしょうか？

### ■アーツ前橋 — “閉じた美術館”から“開かれたまちの広場”へ

旅のスタートは、前橋市の中心部にある現代アート美術館「アーツ前橋」から。もともとは1980年代に建てられた百貨店のビルだったそうです。それを大胆にリノベーションし、2013年に美術館として再生されました。

外壁は、アルミ製の特注パンチングメタルパネルで構成されており、下部から上部にかけて孔のサイズが段階的に小さく変化しています。このデザインにより、上昇感が演出され、昼夜を問わず美しい表情を見せます。エントランスはガラス張りで、通りから美術館内部の様子がよく見えます。カフェやショップも併設されており、美術館に入るというよりは「まちの一部に自然と足を踏み入れる」ような感覚です。ここではアートが「見るもの」から「関わるもの」へと変化しており、それが美術館とまちの距離をぐっと縮めているように思えました。

### ■白井屋ホテル—— 建築が記憶と未来をつなぐ

次に訪れたのは、今の前橋を語る上で欠かせない存在「白井屋ホテル」。明治時代から続いた老舗旅館をベースに、藤本壮介氏の建築デザインと世界的アーティストたちの力を借りてリノベーションされた、まちの象徴的なプロジェクトです。藤本壮介氏といえば、大阪・関西万博のシンボル「大屋根リング」を設計したことも有名ですね。「丘のような外観」「自然素材の使用」「高低差をつなぐスロープと階段」無機質なコンクリートと豊かな植物たちが見事に融合したアプローチで、自然に建物へと導かれます。

### ■まえばしガレリア—— 複合施設から文化拠点へ

そして今回の旅の中の一番の目的であるのが、「まえばしガレリア」でした。建築家の平田晃久氏が設計を担当したこの施設は、1階にギャラリーやカフェ、2～4階に分譲住宅が入ったアートと生活が融合した複合施設です。「一本の樹の下に人々が集まるように、人々の自由な活動で満ちた場所をつくりたい」という想いでつくられた建物は、そのイメージを形にし緑化された外壁と開放的な中庭空間でおおらかに構成されていました。

印象的だったのは、前橋市がまちづくりのビジョンとして掲げている「めぶく。」というキャッチコピー。このまちが醸し出している空気感にぴったりだと感じました。

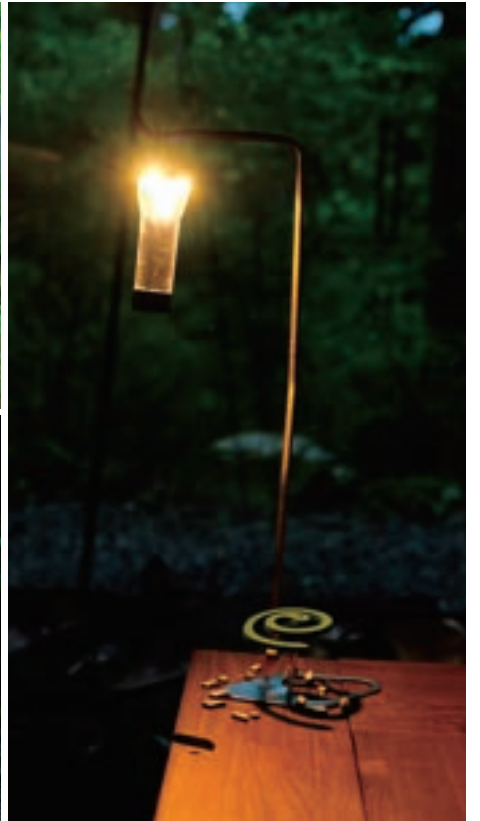
1	2	3	4
5	6		

1.2 アーツ前橋  
3 白井屋ホテル  
4.5.6 まえばしガレリア

20250623



前橋のまちなか



Blog 6

## キャンプの夜長と灯り

夏も終わりを迎え、朝夜は肌寒くなってきましたね。先日、毎度のごとくキャンプへ行ってきました。

今回は、山梨県の道志村「ネイチャーランドオム」さん。

道志村はキャンプの聖地でもあり、道志川沿いには数多くのキャンプ場が軒を連ねています。その中でも、こちらのキャンプ場は「広い」「静か」「木立が綺麗」と、まるでジブリの世界観に浸れるような場所となっています。エリア内で好きな場所に泊まれるフリーサイト形式でしたが、地形で区画されており、車の乗り入れもできる為、オートキャンプが出来ちゃうすごいキャンプ場でした。

キャンプをしていると、顕著に夜長を感じるのですが、今回は特に「自分のサイトだけ暗くない!？」と感じる場面がありました。

料理をしたり、本を読んだり、まどろんでいる時は、不便と感じることはなかったんです。しかし、他のキャンパーさんを見ていると「皆さん明るい!自分暗い!」なんて感じました。もちろん、作業されていたり、生活のリズムがあったりと一概には言えませんが「生活に必要な明るさ」は時間と人によるんだなあと思えました。

住宅でも照明を考える上で、「一室一灯」「多灯分散」という考えがあり、必要な箇所に必要な明るさを計画する「多灯分散」で計画されることが一般的となりました。

ダウンライトやペンダントライト、スポットライト等、適正な箇所に欲しい明るさを計画してあげることは、生活の質を高める重要な計画です。そんな観点で、自分のサイトを例に見てみるとひどい状況です。手元を照らすペンダント照明、机を薄く照らす卓上ランタン、雰囲気作りのランタン。荷物を探す時には困りますし、一緒にいる友人の顔すら見えませんでした。

でも、この暗さが良いとも感じています。キャンプ中ですら、もんもんと考えてしまいます。ぜひ、お住まいの照明計画は、時間が尽きるまで考えてみてください。悩んでいる時間はきっと、とっても楽しい時間だと思えます。

1	2
3	

1 サイト風景  
2 手元用の  
ペンダントライト  
3 雰囲気ランタン

20251007



夜のキャンプサイト



## 令和6年度 第33回 『建築作品・新潟県賞』優秀賞受賞



新潟県建築士事務所協会主催の令和6年度 第33回「建築作品・新潟県賞」にて、  
弊社で設計させていただいた「ANOTHER STATION 小千谷さくら病院」様が  
優秀賞（一般建築部門）を受賞しました。  
ご協力いただきました病院関係者の皆様、および協力業者の皆様、大変ありがとうございました。  
これからも、高田建築事務所はデザインと技術の向上に頑張っております。



詳しくはこちら



### 巣舞づくりのパートナーである 弊社スタッフ自宅も千人鮮色。

千人鮮色の巣舞づくりのパートナーとして、日頃からお客様の  
すまいのご相談に携わっている弊社スタッフ。  
そんな彼らがどんな想いで自宅を建築したのか、どんな生活を送っているのか、ちょっと覗いてみたいはありませんか？自宅を  
設計した際の想いや建築後の生活風景をご紹介します！



### 千人鮮色 自宅探訪

長岡本社  
スタッフK邸

#### question 01 一番こだわった空間は？

広々とした庭を活かした住まいにしたかったので、室内と屋外を繋げるように  
細長い土間空間をつくりました。家のどこに居ても庭までの広がりを感じること  
が出来て気持ちが良いです。



#### question 02 成功点・失敗点

朝日を感じられる家にしたいと思い東側に大きな窓を付けたの  
ですが、朝食の時間に木漏れ日がたくさん入ってくる景色に  
いつも幸せを感じています。失敗点は…収納がもう少しあったら  
良かったと感じる事があります。

#### question 03 住んでみての感想



家に余白を残したことで少しずつ手  
を加えながら暮らしていて、5年  
経った今でも家づくりの楽しさが続  
いています。どの場所にも居心地が  
良く、家族や友人を呼んでもリ  
ラックスして過ごしてくれることが  
嬉しいです！

## Completion of Work 竣工のご紹介 — 各種建築 —



### ひかりキッズ・コンフィ

令和7年3月竣工

ともに「ひとつの大きな家族」というビジョンの元、運営さ  
れるひかりキッズコミュニティ。認可保育所「ひかりキ  
ッズ・コンフィ」は太夫浜保育園の閉園に伴う受け皿を担  
いオープンしました。  
子どもたちひとりひとりをしっかりと見る少人数保育を目  
指し、死角がなくシームレスでありながら、適度な凹凸が  
居場所を生む空間を追求しました。  
それぞれの保育室の間仕切りは、部分的に閉じることも  
遊戯室と一体的なフルオープンにもでき、イベントに合わ  
せてフレキシブルな利用が可能です。  
初代ひかりキッズ園舎と向かい合う配置計画となってお  
り、園舎と笑顔につつまれる保育所が完成しました。



【ひかりキッズ・コンフィ】  
新潟市北区太夫浜2046-3



HP



### 宮内中央こども園

令和7年1月竣工

摂田屋・宮内は、醸造・発酵の町。歴史は古く、産業とアートのま  
ち。宮内中央こども園は、まさにまちの中心に位置します。  
第一期(40年前)は、お城のような町の中のシンボル象徴的存  
在でした。  
このたびの第二期改築のテーマは、なぜか懐かしくなる空間として  
「こもれ陽の降り注ぐ小径ギャラリーのあるこども園 PATH&  
ALCOVE(小さな居場所)」としました。外観正面のやまぶき色  
のデザインは、親鳥から食事をもらうとき、大きな口を開けてア  
ピールする赤ちゃん鳥の口のなかの色。「園児たちが家庭から  
社会に巣立つためには、親鳥の役目」と協奏してこども園をシ  
ンボル化しております。  
鉄筋コンクリート構造は時に冷たくなりがちですが、その内側  
は、木質のツリーアーチが織りなす山々と木々のトンネルを配  
置することで、園児たちに優しい空間を演出し、階段スペース  
も洞窟のような楽しい空間が誕生しました。  
2階吹抜ギャラリーには、地元出身のグラフィックデザイナー  
秋山孝氏のポスター「宮内摂田屋百景」が展示され、街並みをつ  
くっています。



【宮内中央こども園】  
長岡市宮内3丁目10-13



HP



## Re for me

## リフォーム部からのお知らせ・竣工のご紹介

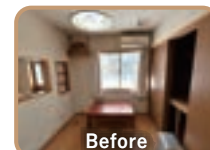
## Re for me

私のための、家族のために、もう一度新しい居場所の提案

## 想いを伝承する家

築25年の中古住宅を購入して自宅へと大規模リフォーム。  
既存の柱や梁を活かして趣のある空間へ生まれ変わった。大規模  
リフォーム

1. ゆとりのある玄関ホール
2. リビングの様子が見えるキッチン
3. 元々LDKだった場所は共有スペースと書斎へ
4. お風呂を入替えて洗面台は造作で使いやすく



## 【ienomaいえのま(旧・日報住まいのリフォームフェア)出展のお知らせ】

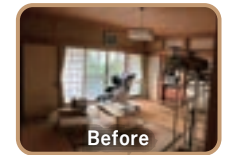
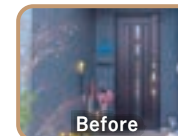
『ienomaリフォーム・新築・不動産フェア2026春』3/14±・15日[ハイブ長岡]、2/28±・3/1日[新潟市産業振興センター]に出展予定です。「春まで待てないわ」という方は、いつでもリフォーム部へご連絡ください。お待ちしております。

大規模  
リフォーム

## つむぐ家

築30年、昔ながらの間取りの住まいをリフォーム。  
薪ストーブの暖かい空気が家全体へ届くよう、大きな吹き抜けをつくり開放感のある空間へ。

1. 対面式の開放的なキッチン
2. 間口の広い玄関とたっぷり収納のシューズクローク
3. みんなが使いやすい2階の洗面台
4. リビングと繋がる大きな吹き抜け

玄関ドア  
リフォーム断熱性能の高い玄関ドアへリフォームしました。  
明るく優しい色をお選びいただき、玄関周りの印象がとて変わりました。玄関ドアの両脇に縦長のサッシを新しく設置したので、玄関ホールの明るさも確保することが出来ました。外壁  
リフォーム築30年のお住まいの屋根と外壁の張替え工事です。  
素敵な外観の印象はそのままに、シックな色合いに変える事でイメージが新しくなりました。

## 「リフォーム施工例集vol.1・vol.2」のお知らせ

リフォーム・リノベーションの施工事例をまとめたカタログをご用意しています。  
大規模リフォームから部分リフォームまでそれぞれのお客様「らしさ」が詰まった施工例集になっています。  
ご希望のお客様は、お気軽にお声がけください。

## 今のお住まいのことで気になっているところはございませんか？

日々見落としがちなメンテナンスから、間取りの変更や設備の入替まで、ご家族の生活スタイルの変化からリフォームや建替えを考えたいけど何からはじめたらよいのか、わからないという方は、是非リフォーム部にお問い合わせください！  
国や市町村の補助金制度の利用も検討しながら、理想のリフォームと一緒に見つめるお手伝いをさせていただきます！

ご依頼はこちらから





Renovation  
Re labo

新潟

## リフォーム研究所

### デッキのある暮らし

築10年以上が経ち、痛みが出てきたデッキと、子どもの成長とともに手狭になったリビングを見直し。  
増築してリビングを広げ、デッキも新しく作り替えました。



家族みんなでゆったり過ごせるようになったリビング

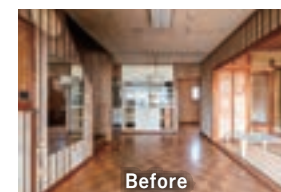


深みのある色合いと高い耐久性が魅力のイベ材で仕上げたデッキ



### 結いの間

3世代が心地よく暮らせるように  
リフォーム。  
家族の想いとぬくもりを感じる、  
穏やかな暮らしが始まります。



Before



建具を開けて開放的に、閉めて個室として使える空間に



お仏壇はリビングの収納へ



家族とつながる対面キッチン



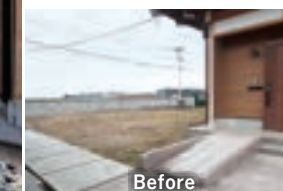
車庫内に洗面脱衣室を増築

### Let's play soccer!

フルリノベから1年。  
減築によって生まれた広いお庭を  
「サッカーができて、お手入れが楽な  
庭にしたい」というご家族の想いを  
形にしました。



五号碎石を敷き込み、防草とデザイン性を両立したロックガーデン



Before



庭の中心に広がる鮮やかな人工芝



足元をやさしく照らす光の道



夜は昼間とは違う幻想的な雰囲気に





Real estate  
不動産部  
(株)フォレス・タカダ

長岡  
新潟

## 売却・住み替え・相続した土地建物 どうしたらいい？

→そんな時は高田建築事務所 不動産部 (株)フォレス・タカダまで

ご家族の想いや愛着のある住まいだから、きちんと引き継ぎたい  
相続した土地建物がそのまま・・・

土地建物の売買・活用方法など

ご相談は有資格者の

専門スタッフ(宅地建物取引士・終活アドバイザー)が承ります。

お電話はこちら  
長岡 0258-39-2919  
新潟 025-282-5848

不動産情報・メールでの  
お問合せはこちら



(株)フォレス・タカダ(高田建築事務所 不動産部)  
宅地建物取引業協会会員  
免許番号 新潟県知事(8)第3591号  
□長岡 長岡市摂田屋5-6-22  
□新潟(営) 新潟市中央区女池南3-5-15

## 古民家の再生・・・長岡市摂田屋の街と共に

発酵と醸造のまち「長岡市摂田屋」を長く見つめ続けた古民家2件の再生にフォレス・タカダが携わりました。  
人とまちをつなぐ新しいお店のご紹介です。

### CASE①

旧A様邸から  
ベーカリーレストランへ



発酵と循環を表現するベーカリーレストラン  
**WILLOW HOUSE(ウィロウハウス)様**

旧A様邸が建築されたのは明治元年(1868年)、  
なんと約150年前!

当初は、建物は取り壊して分譲地の計画でしたが、A様は「生まれ  
育った家を壊す」ことを心もとないと感じていたそうです。

「建物を残し、引き継ぐこと」

その想いが実り、ご相談から約1年をかけて、A様からSUZUGループの鈴木様へ引き渡されました。

古民家ならではの、柱や建具の風合いや色合いはそのままにリノ  
ベーションされた古民家は、過去と現代を混ぜ合わせ、発酵させた  
ような雰囲気です。

ウィロウハウス様のホームページに書かれたメッセージ

“この場所を代々守り続けてきた人々への敬意と、お屋敷を受け継  
ぐことへの決意。そこに、私たちが大切にしている価値観や未来へ  
の想いを込めています”

現代の私たちが受け継ぎ、そして次の未来へ繋いでいきたいと思  
います。

WILLOW HOUSE(ウィロウハウス)

お店の情報はここから

Instagram willowhouse\_nagaokaで検索



出典: 高田建築事務所ホームページ「スタッフブログ」  
出典: SUZUGROUP様ホームページ

### CASE②

旧T様邸から  
カフェ・シェアキッチン・セレクトショップ



摂田屋新たなまちの交流拠点  
**Chahho。(ちゃっほ)様**

長らくお茶の販売を営んでいた「竹樋茶舗」様。  
商店街に多い「店舗併用住宅」ですが、築94年のご長寿物件!  
母屋の奥には裏庭、少し離れた納屋もあり、奥行のある物件です。

摂田屋を盛り上げる活動をされている「ミライ発酵本舗様」様へご  
紹介したところ、立地条件と竹樋茶舗様の建物が持つ雰囲気をと  
ても気に入っていただき、「建物を残し、引き継いで」いただくことと  
なりました。

大規模リノベーション後は、ミライ発酵本舗様の新本部として、  
また多世代の人とまちの交流拠点として2025年10月グランドオー  
プン!シェアキッチンではバラエティー豊かなメニューを日替わりで  
提供中です。

竹樋茶舗様は、世代を超えて集えるあたたかな交流の場となりまし  
た。お茶を片手に、まちと人の縁がゆっくりと、繋がっていきます。

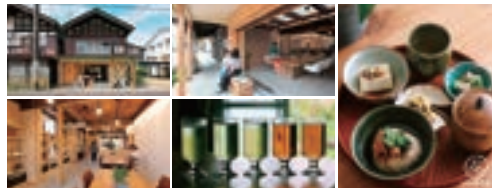
誰でもふらっと立ち寄れる、ほっと一息・一休み・・・

ぜひ「Chahho。(ちゃっほ)」様へお立ち寄りください。

Chahho。(ちゃっほ)

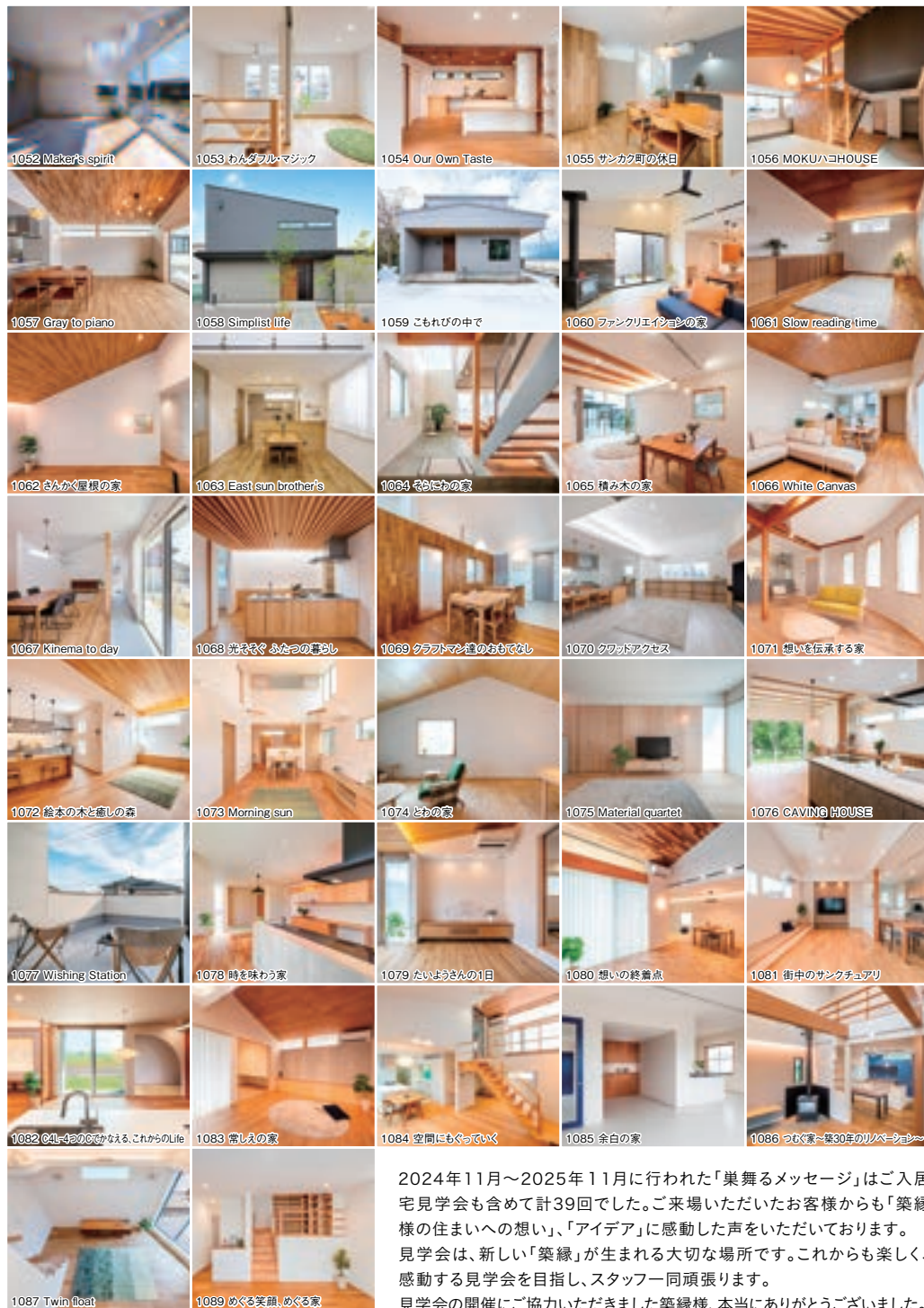
お店の情報や日替わりメニューの詳細

Instagram Chahho.miyauchiで検索



出典: ミライ発酵本舗様「かわら版」  
出典: Chahho. Instagram

## 巣舞るメッセージ 住宅見学会 2025



2024年11月～2025年11月に行われた「巣舞るメッセージ」はご入居  
宅見学会も含めて計39回でした。ご来場いただいたお客様からも「築縁  
様の住まいへの想い」、「アイデア」に感動した声をいただいております。  
見学会は、新しい「築縁」が生まれる大切な場所です。これからも楽しく、  
感動する見学会を目指し、スタッフ一同頑張ります。  
見学会の開催にご協力いただきました築縁様、本当にありがとうございました。



# 築縁様の声

「お客様アンケート」にお寄せいただいた感想から一部抜粋してご紹介します。

VOICE 2

ダメ元で問い合わせた内容を可能な限り検討していただき、実現していただきました。

私たちの意見をまず受け入れてくれる、その姿勢にはすばらしいしかなく、本当に嬉しかったです。  
(新発田市W様)

VOICE 4

細かい部分まで叶えてくださりありがとうございました。スタッフ皆様の責任感や誠実さが本当に素晴らしいと感じました。  
高田建築さんをお願いをして本当に良かったです。これ以上ない大満足な家をありがとうございました。  
(湯沢町N様)

VOICE 6

初回の打ち合わせでの提案力が良く、「ハウスメーカー同等の価格になってしまってもこちらにお願いしたいね」と夫と帰りの車内で話していました。契約前なのに誠実な対応に感動しました！  
やっぱり高田さんで家を建ててよかった！と思わせてくれる仕事の仕方に感謝します！  
(新潟市A様)

VOICE 1

いつも打ち合わせの時間が楽しくて、それは高田建築事務所の皆様がとても感じ良く誠実に家づくりを提案サポートして頂いたおかげです。  
笑顔の花をたくさん咲かせながら作り上げたお家は心から愛しいです。  
(三条市A様)

VOICE 3

これからの未来は「考える力」が不可欠だと考えています。そして、その中でも「想像力」は、今あるものから、今目の前にないものを反実仮想するわけで、最も培うのが難しい力だと思います。  
どうぞ、みんなが幸せに暮らせる家を、想像の翼をはためかせ、作り続けてください。  
ありがとうございました。  
(長岡市O様)

VOICE 5

夢のマイホーム作りに、こんなにも素敵な建築会社さんと出会えたこと、本当に幸せです。  
”我が家が1番!!”と思いながら毎日過ごしています。  
私たちのわがママをたくさん聞いてくださり、ありがとうございました。  
(長岡市Y様)

## ご紹介制度のご案内

大切なご家族、ご親戚、ご友人、同僚の方など、ぜひご紹介ください！

建築を通じて結ばれたご縁は一生のものです。  
その“築縁”をわたしたちは末長く大切にいたします。

ご紹介くださった築縁様にも、ご紹介を受けたお客様にも、**双方にうれしい特典**もございます。

身近にこんな方はいらっしゃいませんか？



新しい家族を迎える方



お子様が  
ご入園、ご入学を迎える方



婚約等を機に  
新居をご計画の方



住宅の新築を  
お考えの方



ご自宅を  
ほめてくださる  
ご友人



建て替えを  
ご検討の方

### ご紹介の流れ

STEP1

フォームより  
お知り合いの方へ  
ご紹介いただく



ご紹介フォーム

STEP2

高田建築事務所より  
築縁様へご連絡

STEP3

高田建築事務所より  
ご紹介いただいた  
お知り合いの方へご連絡

- お電話にてご紹介
- ご紹介者様からスタッフへ「〇〇さんからの紹介です」と伝えてもらう形でもOKです！

ご紹介いただく

ご紹介を受けた方が、ご契約いただく



TAKADA



築縁様

TAKADAからお礼の品をプレゼント



築縁様



TAKADA

TAKADAから商品券をプレゼント



ご紹介を受けた方

## Follow me! SNS

いいね！フォロー、よろしくお願いいたします！！



家づくりの  
情報や事例などは  
コチラ！



最新NEWS

アンケートをお寄せくださった築縁様、本当にありがとうございました

## 言葉との出会い：発酵し続けることば！

### 1. 運・鈍・根(うん・どん・こん)

2025年のノーベル賞に二人の日本人が選ばれた。生理学・医学部門では坂口志文氏(大阪大学特任教授)と化学部門では北川進氏(京都大学特別教授)による快挙である。

お二人が大切にしている言葉として『成功の秘訣は「運・鈍・根」を大切することである!・・・』と語られていた。

言葉が生まれるのはその時代の背景が大きく左右していると言われる。

『人生で大切なのは「運・鈍・根」の3つの「ん」が大切である』と初めて聞かされ、この言葉に出会ったのは私が長岡に帰ってきて仕事を始めた46年前の早い時期であった。当時、近所の商店の親父さんから店舗の改築依頼を受けた時であった。ご自分の経営哲学をこの言葉に載せて教えてくださったことを思い出した。

『高田君、商売をやっていて一番大事なことは自分の力ではどうにもならない「運」が必要なんだよ。幸運であれば良いが。不運の時は何をしても追いついていかないものだ。また、その人が小さなことに拘らない神経を持っていることだよ。あまり切れる頭脳を持ってはいけない。鈍感の「鈍」だ。見方を変えれば「粘り力」かな。そして、「運」と「鈍」があっても三つ目の「ん」が無ければ成功者にはなりにくい。それは根性・根気の「根」だよ。継続力でもある。「成功するまでやり続ける限りは失敗と言う言葉はない!』』と言うことらしい。私の心の中に深く刻まれた言葉もあった。勿論、出会った言葉に元気をもらえるが実行できるかどうかは別問題でもあるが。

坂口志文氏の「運鈍根」に解説が付け加えられていた。

・幸運(こううん):準備ができているところに幸運は訪れるという考え方。(チャンス虫のお話を思い出す)

・鈍重(どんじゅう):感情的にすぐに反応せず、鈍感力を持って物事に対処する力のこと。

・根気(こんき):粘り強く、諦めずに努力を続ける力。

### 2. 多様性:(ダイバーシティ)

弊社50周年を記念して長岡市川崎町6丁目にダイバーシティ構想が持ち上がった。

多様性はダイバーシティと呼ばれ広義的には様々な要素がハイブリッドに重なり合って活力ある新しいヒト・モノ・コトの世界を生み出す力でもある。

ダイバーシティ川崎(DSK)は、S氏から与えられた土地(田圃2反)をどのようなテーマのもとに活かしきるか?(何をやってもいいということはあらためて難しい課題でもある)千差万別に提案された試案を形化するためのキャンパスでもあり、形の原点を探しているうちに三角形と組み合わされた六角形にも出会うことが出来た。元々シャボン玉を重ねていくといつの間にやら六角形になることも教えてもらった。

六角形は、最小のエネルギーで最大の効果が得られる特別な形で、自然が作り出す最も安定した構造だと言われている。

例えば、ハチの巣(ハニカムコア)は、自然界における六角形の重なりであり、ベンゼン環も化学界における六角形の構造体である。

その六角形を並べ替えたり、積層すると一つのプロトタイプが現れ、建築の新しい形が、少しずつ見えてきた。

2026年度は弊社創業50周年の年である(50+1)

50周年は新たな発酵探しの旅立ち!

皆様の居場所探しの旅が感動と平安であること

これからも、末永くご愛顧のほどをお願い申し上げます。

良き年をご祈念申し上げます。



### 3. 巣舞蔵(すまぐら)

弊社では「すまいは巣舞:巣は形、舞は想い:想いを形に!千人鮮色のすまいづくり」をスローガンに掲げ“建築主様の個性を大切にした巣舞づくり”を追求している。

同時に弊社のホームグランド摂田屋は“発酵と醸造の街”の歴史をもち、現在では継承すべく新たな街おこしに力を注入し始めている。

発酵は微生物(カビ、酵母、細菌等)が時間をかけて有機物を分解して有益な物質を生成するプロセスであり、食文化の豊かな街づくりとして摂田屋はいま再び光を放ち“発光”し始めた。

発酵文化の象徴としての蔵群の景観も再生の要処となって発酵し始めている。

「衣食足りて礼節を知る!」なる諺に「住」を加えて「衣食住足りて礼節を知る!」と置き換えるとすまいの変遷にも微生物がはたきかけていることになる。

但し、食にはたきかける微生物ではなく、個性ある巣舞づくりを求める方々からの微かな声を聞き取りながら沸々と形化する力が求められることになる。

まさに、巣舞づくりの微声沸(びせいぶつ)(※1)が働きかけるのである。そんな居場所を巣舞蔵(すまぐら)と呼ぶことにしたい。

景観となる蔵群は発酵文化の象徴でもある。

(※1)微声沸(びせいぶつ)とは:弊社では我家だけの住まいづくりをするための手法として使っている放題紙に想い(思いたい放題・言いたい放題・書きたい放題)を書き出してもらい、その声を大切にしながら巣舞づくりを発酵させていこうとするもの。

(株)高田建築事務所 会長  
ミライ発酵本舗(株) 会長  
APMサポート委員会 委員長  
高田清太郎